

# 令和5年度（2023年度） とよなかの学び活性化推進事業 （とよなかっ子・学び・WAKUWAKUプラン）

---

実施報告（総括）

# 総括

---

## 【対象校】

- 小学校2校、中学校2校

## 【取組結果】

- 各学校の実情に合わせ、保護者や地域を巻き込んで、特色ある学校づくりに寄与する取組みを実施した。
- 対象の学年以外にも良い影響を与えたり、他の学校との交流につながったりし、この取組みによって児童生徒同士が広範囲に学びあう機会となった。

## 【課題】

- 継続して実施するための予算の確保。

## 【次年度に向けて】

- より多くの学校が活用できるよう検討しながら継続して実施予定。

# 各校の取組み

---

(1) 小曾根小学校

(2) 刀根山小学校

(3) 第一中学校

(4) 第十五中学校

# (1)小曽根小学校

## 【企画提案テーマ】

おぞねファームでつくろう！

「菌ちゃんのかってすごい！」野菜づくりを通したSDGsの実践



おぞねファーム



とうもろこし受粉作業

## 【取組内容】

- 2年生児童が、地域の人たちの協力を得ながら、微生物を培養してたい肥をつくり、その畑で野菜を育てて収穫する。
- 微生物(自然の力)のおかげで野菜が作られること、自分たちの健康や安心安全な食生活につながっていることを知り、また、地域の人たちとの交流を通し、小曽根の地域のすばらしさを再発見することをめざす。

## 【自己評価(成果)】

- 取組みを通して、2年生児童が土や虫、野菜への苦手意識が改善し、興味や関心を持つようになった。
- 栽培・収穫し、調理実習をした1年、4年、5年、6年生児童からも「おいしい」「最高だった」「畑で作業がしたい」などの声を聞くことができた。
- 高学年児童が放課後の手伝いを申し出てくれたり、野菜嫌いの支援児童が野菜を食べるようになったり、不登校気味の児童がこの活動を通して自分の気持ちを表現できたりして、児童の行動に様々な影響が表れた。

## 【課題とこれからの展望】

- 担当教員の負担が大きいため、継続するには知識と技術に関する研修を行い学校全体で取り組む必要がある。
- 予算の確保や地域の農家との連携が必要である。
- ゲストティーチャーの活用なども取り入れることで、さらなる深化が期待できる。
- 他教科とのつながりを見据えた計画とすることで、教育課程の研究の一つの柱にしたい。
- 令和5年度は野畑 泉丘、少路小学校の自然堆肥による野菜の栽培に協力した。令和6年度は大阪府生活科総合学習実践報告大会で報告を行う。多くの学校にこの活動が広まるよう、より魅力的でわかりやすく、実践しやすいカリキュラムを計画、立案し広めていきたい。

# (2) 刀根山小学校



学習の様子

## 【企画提案テーマ】

世界中のクリエイティブな大人との出会いを教室で

## 【取組内容】

- 6年生の総合的な学習の時間に、一人一台端末で「InspireHigh」(動画コンテンツを通して世界中で活躍する大人の多様な生き方や価値観、仕事、社会課題について学ぶプログラム)を視聴し、世界の第一線で活躍する大人のマインドやアクションに触れる。
- 自分自身が感じたこと・考えたことを教室の仲間にアウトプット、お互いにフィードバック、自分自身へのリフレクションをする等、一連の学習活動を通して、児童一人ひとりが自分自身の未来を描くきっかけづくりとする。

## 【自己評価(成果)】

- 「自分らしさ」「解決したい社会課題」「自分の夢・未来」「してみたい仕事」など、解決策が多様な課題、複数の選択肢がある問いを児童と教員が一緒に考えた。世界で活躍する大人が自らの言葉で語る内容が、課題や問いを考えたり設定したりする際の起点やヒントになった。
- 6年生最後の授業参観のスピーチでは、動画コンテンツを視聴したことが直接的に自分の夢・未来につながったと語る児童や、「自分らしさ」について話す児童がいた。
- 9月の学校公開、11月の校内意見発表会、12月の中学校校区意見発表会、2月の授業参観等において、取組みの経過や成果を学校教育関係者・保護者・地域に発信したほか、学校ホームページ・豊中市公式X・他校教員の視察・教員研修等の場で発信した。

## 【課題とこれからの展望】

- 「探究学習サイクル」において、学習履歴の整理・チェック・フィードバックを簡便に実施する方法を検討する必要がある。
- 総合的な学習の時間の内容の充実、小学校段階におけるキャリア教育のモデルづくり、児童が課題設定・問題解決・発信方法を選択・決定できる探究学習のモデルづくり等、校内研究を進める上で多方面での成果や効果があった。
- 来年度は児童が選択・決定して進める「個別最適な学び」を総合的な学習の時間を中心に進めていきたい。

# (3) 第一中学校

## 【企画提案テーマ】

地域を守る一中プロジェクト

～生徒・教師・地域の防災力アップグレード作戦～

## 【取組内容】

- 全学年を対象として「地域守り隊」を結成し、大阪公立大学都市科学・防災研究センター教授及び研究員を招き、防災まち歩きを行う。
- 東日本大震災被災地の元教員を講師として招き、全校生徒研修・教職員研修を行う。
- 代表生徒と教職員が東日本大震災の被災地を訪問し、発生当時のこと等防災について学び、福島県新地町立尚英中学校との生徒間交流を行う。また、帰阪後もオンラインにて交流を行う。
- デジタル防災マップ(安全な避難経路図)の作成や地域の小学校への出前授業の実施。
- これらの取組みを通じて、全生徒と全教職員の防災力を地域と共に高め、自らの命や地域の暮らしを守る意識を向上することをめざす。

## 【自己評価(成果)】

- 全校を挙げて防災の取組みに力を入れ、「めざす学校像」の1つ「生徒の命を守りきる学校」を昨年度まで以上に推進することができた。
- 「本物と出会う機会を体験」することが「主体的で 対話的で 深い学び」に結びつき、「生徒の達成感、自己有用感、自己肯定感の向上」にもつながった。また、地域との関係を深めることができ、地域の一員として地元愛・郷土愛を育成する機会にもなった。
- 中学校での経験を糧に、社会の中で活躍・貢献する人になってくれるものと期待している。

## 【課題とこれからの展望】

- 小中一貫教育推進事業の中での小学校及び地域との連携を推進・拡大すること。
- 限られた学校予算の中で、防災に取り組む予算を確保すること。
- 教科の授業時数を確保する必要のある中で防災の取組み時間を確保すること。



# (4) 第十五中学校

## 【企画提案テーマ】

◇○親子で資格を ⇒ まあるい笑顔。  
＝いまこそ学びに向かう力を高める＝

## 【取組内容】

- 学校で英検・漢検の団体受験を実施し、校内に広く呼びかけ学びに向かう空気を醸成することで、生徒のキャリア形成への視野を広げ、志を立てられる生徒を育成する。
- 親子での受験も可能とし、資格取得に親子で取り組むことで親子関係の改善や保護者のリカレント教育にも寄与することをめざす。
- 受験に至らない学習障害が疑われる生徒には検査により自己理解を深めるとともに学習会を開催する。

## 【自己評価(成果)】

- 受験会場を学校に設定し、問題集を各教室に配架し校内に広く受験を呼びかけたことにより、学びに向かう空気を醸成することができた。
- 英検・漢検の受験や心理検査の受検により自分の力や特性の自己理解につながった。
- 生徒の自己肯定感の向上や、キャリア形成の視野を広げ、英語を使って国際的に活躍したい等の志につながった。
- 子どもと保護者が一緒に受験する姿が見られ、円滑な親子関係の構築や保護者のリカレント教育にも寄与することができた。
- 団体受験により受験にかかる保護者負担費用の軽減を図ることができた。

## 【課題とこれからの展望】

- 試験監督(有償ボランティア)への応募が少なく、人員確保に苦労した。
- 心理検査は、対象者の決定や、本人への受検勧奨の方法の検討に苦労した。
- 学習会の実施は担当する学生の都合で想定したよりもずっと少ない回数となってしまった。
- 予想よりも受験者は少なかったが、毎年取り組むことができれば定着し、生徒も計画的に学習や資格取得に向けて学ぶことができる。